

学生の道徳性について ―実習後の調査その2―

福山 多江子

(関東短期大学)

1. はじめに

現代社会において、子ども達をとりまく自然・人的環境が彼らに与える影響は多様であり、安らかなものではない。学校教育においては、幼稚園段階から高等学校段階まで、発達段階に応じて道徳教育が行われている。幼児期における道徳性の芽生えは、幼児が家庭や幼稚園・保育園で他の人々と共に生活をし、他者とのやりとりや遊びを重ねていく中で培われていく。幼稚園・保育園において、道徳性の芽生えを培うためには、教師一人一人が『道徳とは?』ということに関して理解を深めた上で、指導が行われる必要があると思われる。

そのために、これから保育者になるであろう学生の持っている道徳観について調査を行おうと考えた。学生自身が道徳性について精通していくためには、子ども達の道徳性の発達の過程を正しく見る目を養うことが必要であると思われる。それは、大人による働きかけ、友人とのやりとり、他の人との信頼関係、自分でやり遂げる経験などの体験を通して身につけていくものである。

学生にとって、実習とは直接体験の場であり、社会人としての第一歩である。そこで、今回はその2として、実習前と後の学生の道徳観について、自由記述による調査を実施した。

2. 調査の対象と方法

(1) 調査対象

K短期大学初等教育科 1～2年 150名

取得資格：幼稚園教諭2種免許、保育士資格

実施日：平成14年11月～平成15年6月

(2) 調査方法

道徳性に関わりのある質問をいくつか用意し、それに対する学生の対処法・考え方を集計し、まとめる。

質問項目

質問1 あなたが保育者になった時、自分のクラスで飼っていた生き物（ ）が死んでしまったら、あなたはどのように対処しますか？

◎子ども達に対して

◎その生き物に対して

※（ ）には飼っている生き物を考え記入

質問2 公園にきれいな花が咲いていました。その花を見た子どもが取ろうとした時、あなたはどのように対処しますか？

◎子どもに対して

質問3 子どもが遊具の順番待ちをしている時、他の子どもが横はiri(割り込み)をしました。それを見ていたあなたは、どのように対処しますか？

◎子ども達に対して

質問4 子どもがおもちゃで遊んでいるとき、他の子がそのおもちゃを取ってしまいました。それを見ていたあなたは、どのように対処しますか？

◎子ども達に対して

質問5 子ども同士がけんかをしています。一人が相手の子を叩いてしまった場面をあなたは見てしまいました。あなたはどのように対処しますか？

◎子ども達に対して

質問6 子どもが数人で遊んでいるところへ、他の子が「入れて」と言ってきました。しかし、「おまえなんか入れてやらないよ」と言われ、仲間外れにされています。あなたはどのように対処しますか？

◎子ども達に対して

質問7 お弁当に子どもの嫌いな食べ物が入っていました。その子は嫌いな食べ物を残そうとしましたが、あなたが「食べましょうね」と言うと、わざと食べ物を床に落としてしまいました。あなたはどのように対処しますか？

◎子どもに対して

3. 結果

実習前と後の回答を表にまとめてみた。

質問			
		前	後
質問 1	② 子ども達に対して	前	後
	a 死んだ理由を話す・考える	37	40
	b かわいそう (同情)	13	5
	c 生き物だから死ぬ	49	32
	d 生命尊重	27	26
	e 墓を作ろうね	29	32
	③ 生き物に対して	前	後
	a 墓を作る	126	120
	b おくやみ	20	14
	c 無回答	1	4
質問 2		前	後
	a 取ろうとした理由 (なぜ?)	2	0
	b かわいそう (同情)	48	32
	c 理由を話す	19	8
	d 生命尊重	48	62
	e1 美しいものを見る楽しさ	13	16
	e2 他の人が見られなくなる	20	16
質問 3		前	後
	a なぜしたのか理由を聞く	1	2
	c 悪いことだと自覚させる	127	94
	e 事後処理	32	34
質問 4		前	後
	a なぜしたのか理由を聞く	13	20
	c 悪いことだと自覚させる	113	58
	e 事後処理	46	54
質問 5		前	後
	a なぜしたのか理由を聞く	66	58
	c 悪いことだと自覚させる	103	44
	e 事後処理	70	30
質問 6		前	後
	a なぜしたのか理由を聞く	48	58
	c 悪いことだと自覚させる	90	36
	e 事後処理	45	38
	n 無回答	1	0

質問 7		前	後
	a なぜしたのか理由を聞く	19	10
	c 悪いことだと自覚させる	113	72
	e 事後処理・次につなげる	21	42
	n 無回答	3	8

4. まとめ

以上のように、学生は自分が直面するであろう (または子どもの頃直接体験した) 幼児との関わりを想定して、「こうあるべき」「こうしなくてはならない」など、気持ちを述べたと思われる。

実習前と後のアンケート調査の結果を比較してみると、トラブルへの対処の違いが最も顕著に表れている。結果としてやってしまったことに対し、実習前の時点では、それが悪いことだと自覚させる (教え、諭す) という考え方が多数であったのが、実習後になると、なぜしてしまったのかを問う、という意見が大半を占めるようになった。

実習を経験することにより、幼児がなぜそういうことをしてしまったのか、まず理由を聞いてから判断することが、保育にとって大切であると感じた結果であると思われる。

子どもは、親・保育者を手本として成長していく。その手本となる大人が、まず基本的な道徳性 (観) を身に付け、また見る力を養い、子ども達を導いていかななくてはならない。

実習とは、学生が多くの問題に直面し、対処していくことで、自らの保育する力を培っていける大切な場であることをうかがうことができた。

今後、もう少し細かな分析を行い、指導上の介入点を得る手がかりとしていきたい。